

本大会で発生した計時機材に関する問題について

2018 年度関東学連スプリントセレクション実行委員会

計センパートチーフ

中野喬博（東京大学 2014 年度入学）

1. はじめに

この度は 2018 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門関東地区代表選考会にご参加いただきありがとうございました。本大会にて計センパートチーフとして計時機材の管理に関わらせていただいております、中野喬博と申します。

本大会において後述のように計時機材に関する問題が発生し、該当の選手より調査依頼を受けました。調査依頼に対しては競技責任者の瀬川により既に回答済みですが、選手の関係者の方より原因と対策を明らかにした上で事実関係と共に公表してほしいといった旨の依頼を受けました。私個人としましても本件に関わらず運営上起こった問題はなるべく詳細を公開して類似する問題の再発防止に資するべきだと考えており、本文書にて示させていただく次第です。今後のセレクションやその他の大会運営の参考にしていただけると幸いです。

2. 事実関係

まず本件の詳細と、こういった問題を起こさないために事前に行った対策の内容をご説明致します。

【問題の詳細】

- ・ Ms1 クラス清水俊祐選手（慶応義塾大学）、Ms2 クラス藤原真吾選手（関東学院大学）の 2 名が使用した SI カードがタッチフリーで反応しなかったという報告を競技後に受けた。
- ・ 2 名共にスタート前に確かにクリア・チェックを行ったと述べている。
- ・ 2 名共に 1 番目のコントロールにてタッチフリーで反応しないことを確認し、以降ステーションにカードを差し込むことで通過証明を行ったと述べている。
- ・ 提出された SI カードに対して改めてバッテリーチェックを行ったが、何れも問題は無かった。
- ・ 提出された SI カードに対してクリア・チェックを行ったところ、以降タッチフリーのステーションに反応するようになった。

（タッチフリー対応の SI カードはフィニッシュを通過した時点でタッチフリーモードを終了するため、競技中にタッチフリーで反応しなかったことの実偽を競技後に確認することはできない。）

【事前に行った対策】

- ・ 前日にすべてのレンタル SI カードに対してバッテリーチェックを行い、カードに問題が無いことを確認した。
- ・ 会場にクリアステーション・チェックステーション・テストステーションを設置し、選手が事前にクリア・チェックを行い、SI がタッチフリーに対応していることを確認できるようにした。

- ・会場で選手に対しクリア・チェックを行うよう呼び掛けた。
- ・スタート地区にクリアステーション・チェックステーションを設置し、スタート枠に入る前に選手が両ステーションにパンチすることを役員が確認するようにした。

3. 原因と対策

考えられる原因と対策について述べさせていただきます。また、対策についてはなぜ本大会でそのような方式を行わなかったのかをご説明いたします。今後の運営方式を考える際の参考にしていただくと幸いです。

【原因】

上記トラブルの原因として以下が考えられる。

- ・SI 機材の故障
- ・スタート前に SI カードに対してクリア・チェックが行われていなかった

1 点目について前項での検査から SI カードの故障は見受けられず、大多数の選手が問題なく競技を終えられたことからステーションが故障していることも考え難い。よって以下では 2 点目が原因だと仮定して書き進める。

タッチフリー対応の SI カードはステーションにパンチした際タッチフリー・差し込み式に関わらず 3 秒間音と光を発してパンチが成功したことを示すが、この間他のパンチは受け付けない。競技中は 3 秒以内に到達できる位置にコントロールを配置しないよう配慮したコース設定がされていれば問題ない。しかし、クリア・チェックステーションは基本的に隣接して置かれるものであり立て続けにパンチをすると反応しないため、選手はカードだけでなくそれぞれのステーションから音が発せられたことを確認して確実にクリア・チェックを行わなければならない。クリアステーションにパンチしてカードが音を発している最中にチェックステーションにパンチすると失敗することは検証済みである。両名の選手についてはクリア・チェックステーションに立て続けにパンチし、チェックステーションが反応しなかった結果、SI カードが起動しなかったものと考えられる。

【対策（とそれを行わなかった理由）】

- ・スタート地区に設置するクリア・チェックのステーションを離す
- どちらかへのパンチを忘れる選手が出る可能性がある。

・事前にすべてのレンタル SI に対してクリア・チェックを行う

→ 私が以前に計時機材の管理に関わった大会にてある選手より、使用した SI カードがタッチフリーで反応しなかったという報告を受けた。このときは運営役員の人数が少なく、スタート業務に習熟している者もいなかったため、スタートの負担を減らすためにも開場前にすべてのカードをクリア・チェックし、スタートにもクリア・チェックステーションは設置したが、役員による確認は行わなかった。開場前の慌ただしい中でクリア・チェックを行ったため漏れがあったものと考えられる。この反省から、数百個のカードに対して短時間で漏れなくクリア・チェックを行うのはほぼ不可能であり、それよりは選手の手で確実に行われるようにするべきだと考えた。本大会では開場前の時間とクリア・チェックステ

ーションが会場に1組しか無かったことと、開場からラストスタートまで4時間以上あり、電池切れのリスクもわずかながら高くなることを考慮して事前のクリア・チェックを行わなかった。

・SIACtest (テストステーション) をスタートに設置する

→ 大場隆夫氏 (オリエンテーリングクラブ サン・スーシ) 作成のマニュアルには SIACtest を会場に設置するよう記述されているが、大規模な大会ではスタート地区に設置されていることが多い。選手にとってはウォーミングアップに活用できた方が良く、スタートに設置されている方が望ましいと個人的には考えている。しかし、本大会では計時システムに習熟していない初心者の参加も多く、各団体の上級生が新入生を集めてシステムの概要を説明できるような場があるべきで、それは競技前で慌ただしいスタート地区よりは会場の方が望ましいと考え、会場に設置した。

・「SIカードが起動されていれば10秒に1回先端が点滅します。クリア・チェックの後にご確認ください。」という旨をプログラムに記載する

→ この仕様は広く知られているものだと思っていたが、そうではないようだった。この点滅は注意しないと見逃してしまいかねないほどの僅かなものであり、スタート枠に入った後の選手が点滅を見逃してカードの交換を申し出るようなことが多発した場合スタートが混乱する可能性があると考え、記載しなかった。他の大規模な大会でもプログラムにこういった旨の記載はされていないことが多い。

4. 所感

本件に関する私個人の意見を述べさせていただきます。

この度はセレクションに関わる一部の選手が不利になる要因を作り出してしまったことに対し、深くお詫び申し上げます。強く反省し、今後の対策を思案しております。

一方で、競技的にはクリア・チェックやフィニッシュへの確実なパンチは競技者の責任において行われるべきものであり、それを怠ったことで不利になったとしても責任は競技者にあります。本大会ではフィニッシュへのパンチ記録のない選手が多数いましたが、これも選手たちがそもそも通常のSIカードを用いた競技を経験していないため差し込みパンチの要領を把握しておらず、カードの差し込みが甘かったことが原因だと考えられます。SIトラブルの本質的な原因は運営者・参加者共にその仕組みに習熟していないことであり、セレクションの成立を第一に考えるならSIの使用を控えるべきです。しかし地区セレクションでSIを使用することで選手にSIを用いた競技に慣れさせるという意味もあり、インカレ本番でSIに関する知識不足による失格や不利な状況が生じる可能性を下げるためにもセレクションでSIを使うことに私は賛成です。

運営者・選手共に私が想定していたよりもSIに関する知識に乏しかったというのが今回の運営を通じての率直な感想です。計時システムは競技としてのオリエンテーリングの肝であり運営者だけでなく競技者の皆様におかれましてもその仕組みについて十分に理解された上で競技に臨んでいただきたいと存じます。また、各団体におかれましては初心者に対して十分な指導を行っていただきますようお願い申し上げます。